

視力検査について

子どもの目の機能は、生まれてから発達を続け、6歳にほぼ完成します。ところが、強い遠視や乱視、斜視などがあると目の機能の発達が遅れ、十分な視力が得られないことがあります。子どもは自分から「見えにくい」とは言いませんし、保護者の方が子どもの「見えにくさ」に気付くことは、なかなかありません。片目ずつしっかり検査しないと「片目の見えにくさ」はわかりません。視力の発達をじゃまする異常がある場合、なるべく早く見つけて治療することがとても大切です。

◆準備するもの

- ・視標（下の輪を切り取り、厚紙に貼る。）
- ・ティッシュペーパーまたはガーゼ、セロハンテープまたはサージカルテープ
- ・メジャー

◆片目のかくし方

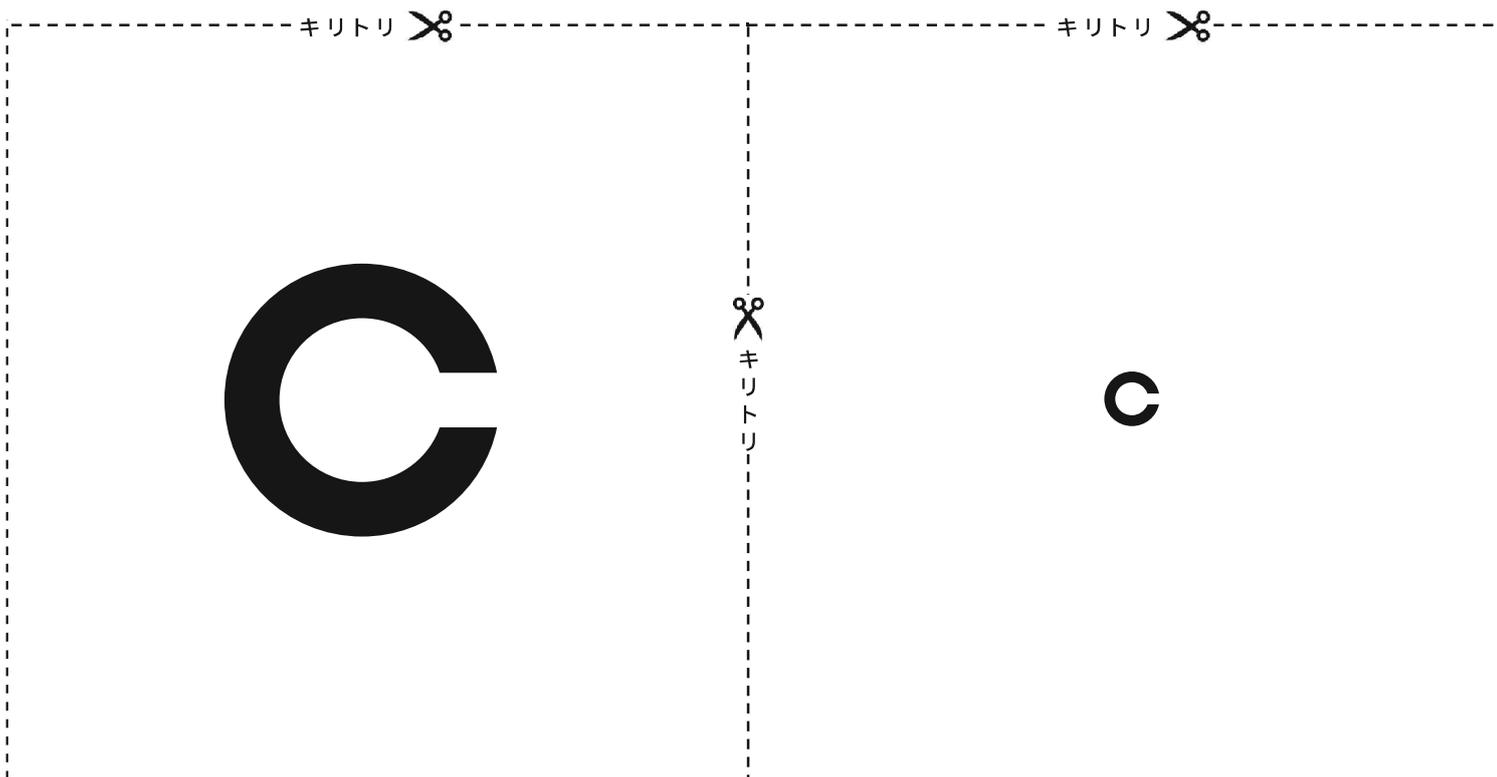
- ・ティッシュペーパーを4つ折りにし、隠す方の目に当てて隙間ができないようにしっかり貼りましょう。

◆検査時の注意点

- ・明るい部屋（薄暗い部屋やまぶし過ぎる部屋は避ける）で、子どもの機嫌のよいときに行ないましょう。
- ・子どもは検査を理解するのに時間がかかります。遊びやゲームの延長が検査につながるよう、声をかけながら何回か練習して検査しましょう。
- ・切れ目の向きを変えるときは、必ず一度視標を隠してから変えましょう。

大きい視標

小さい視標



A4サイズで印刷してください

ご家庭で視力検査をやってみましょう

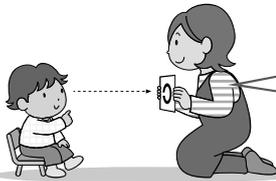
①まずは近くで両目で指さしの練習



*指さしが難しい場合、子ども用のハンドルを持たせ保護者の方と同じ方向に合わせてもらいます



②少し離れて両目で練習（大きい視標）



*視標は子どもの目の高さに合わせます

*手持ち用の輪は下記HPからダウンロードできます。

日本弱視斜視学会
<https://www.jasaweb.jp/general/3saiguide/guide2>

日本視能訓練士協会
<http://www.jaco.or.jp/ippan/sansajji/>

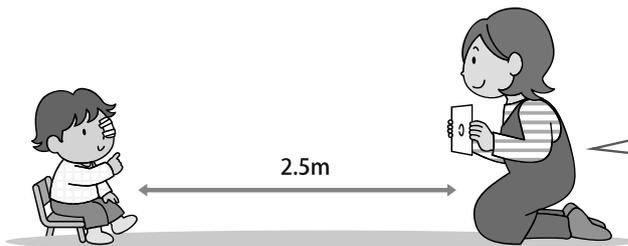


片目をしっかり隠します

*こんなかくし方は×



③さあ本番！2.5m離れて検査しましょう。（大きい視標⇒小さい視標の順に、両目⇒右目⇒左目を検査する。）



*子どもとの距離（2.5m）はメジャーで正確に測りましょう

切れ目の向きを上下左右の4方向見せ、3方向以上正解したら見えたとする。

④結果を3歳6か月児健康診査診査録(その2)の目に関するアンケートに記入します

ご家庭で検査がうまくできないとき

*最初は上手にできなくても、何回か練習をくりかえすと、できるようになります。

どうしてもできない場合は、無理強いせず日に変えて検査してみましょう。

*それでも検査ができないときは、弱視が原因となっている可能性があります。

*ご家庭でどうしても検査ができない場合は二次検査(医療機関)でおこないます。

